



広報ざいだん

2016年 (H28) 8月 No. 7

公益財団法人 茄子川地域振興財団 中津川市茄子川1317-4 TEL0573-68-5655

「里山を守る源根林道」

茄子川地域に住む者にとっては、源根と言えば直ぐに源根溜池が浮かんできます

この度県の林道コンクールにおいて、里山源根林道が最優秀賞として県知事表彰を受賞しました。

源根林道は、里山を守る幹線林道として、大切な財産です。

この源根林道の力で、「里山はそこから生み出される様々な恵み」公益機能（水源滋養、山地災害防止、生活環境保全など）を保持、有しながら、私たちに生活用水、農業用水等供給しながら、また、地域を災害から守り、私たちに安全安心な暮らしと恵みを与えてくれます。

財団では、里山を知ってもらうことを大切にしたいと考えています。

源根林道は、安全で気軽に散策、またウォーキング等ができ、森林浴、湧出する清水、せせらぎ等に触れながらこれを満喫できます。林道脇には、500メートル毎に距離表示板を設け、散策の目安に、また市街地が展望できる丘、百年林、デレーケ堤史跡、総合治山事業も見学できます。

今後ますます少子高齢化は進んでいきます。こうした社会背景の中「山」離れは自然の流れと考えます。しかし、大切な「里山」を守って子々孫々まで引き継ぐ責務があります。

その一歩として「里山を知り」「森の恵み」を意識するため、源根林道と里山に入って、新たな体験と発見をして見てはどうですか。

源根林道の維持管理には、地元割り山組合の皆さんのお力により毎年恒常的に真夏日に、「草刈」「側溝清掃」「枝打ち」等の作業を実施していただいているお陰で、立派に維持管理されております。

公益財団法人 茄子川地域振興財団

理事長 原 勝 治



源根林道の紹介

この林道は、中核工業団地、ユーグレナゴルフ場に隣接した市道から根の上保古の湖まで距離7.718メートル、幅員4メートルで、昭和47年～平成23年までの長い年月をかけた継続事業として、県、市、地元財団で総事業費4億6200万円をかけて、完全舗装、側溝整備道として、一般道路に劣らない立派な林道が完成しました。

平成28年度主要事業計画について

ご案内のとおり、本財団の使命は「地域づくり、地域の振興発展」に資することにあります。

そこで、これから益々すすむ高齢化社会、過疎化、自然破壊や、人と人とのコミュニケーションの減少など単純に「物質的、経済的な豊かさ」だけでは解決が出来ない複雑な問題が、次々にでてきます。

このような時代において、公益法人が社会に果たす役割と住民の期待はますます大きくなってきます。

新財団は、旧財団の「産業振興」から「地域振興」を目的とする公益法人へと大きく方針転換し、刻々と変わる社会のニーズへの素早い対応を可能としました。

これからの財団運営のあり方は、従来の方角性を堅持しながら、民間との連携併せて行政と協働しながらの、公の一翼を担うと言う考えで「新しい地域づくりと振興発展」の形成を基本理念として、取り組んでまいります。

それが成るために、定款に定める公益目的事業を確実にかつ顕著に推進しながら、茄子川地域の振興発展と公共の福祉の増進に努めてまいります。

「公益財団法人としての基本姿勢の堅持」

- 公益財団法人における財務三基準の遵守
- 定款に定める公益目的事業の推進
- 不特定かつ多数の者の利益の増進に寄与
- 公益の増進と透明性の推進

「社会情勢、地域生活環境及び住民ニーズに対応した運営」

- 本財団の使命は、地域の振興発展と地域づくりにあります。

それがため、定款に定める公益目的事業を基軸に「民による公益の増進事業」を着実に推進し、これに取り組んでまいります。



源根の森空撮

「中津川市との協働事業」の推進

- 中津川市と締結した「リニアまちづくり開発協定」の推進は、本財団の進める地域振興事業と合致、共通するものです。
- 当地域が中津川、恵那という広域的区域の中心的役割りを担うべく、受け皿作りは、その将来性に併せて有益かつ必要事業と考えます。
- この協定に伴い、今年度は具体的な事業に取り組んでまいります。茄子川地域（6区、7区、8区）に有する資産（土地）の有効利活用について具体的取り組みを進めます。
- 若者の定住化、雇用の場、活性化等に資する地域にマッチした工業用地の造成事業（中津川市）への協力、支援で地域振興の基盤を築きます。



マレットゴルフ場空撮

本財団の地域環境と住民ニーズとその認識を踏まえて、地域の振興発展のため公益目的事業を推進していきます。

財政状況の公表

平成27年度決算に伴う貸借対照表を公表いたします。

決算公告		科目		金額
平成28年5月29日				
公益財団法人 茄子川地域振興財団				
貸借対照表の要旨				
(平成27年3月31日現在)				
(単位：千円)				
科目	金額	科目	金額	
資産の部	流動資産	14,695	流動負債	16,027
	固定資産	368,016	固定資産	100
	合計	382,711	負債合計	16,127
		指定正味財産	215,823	
		一般正味財産	150,761	
		正味財産合計	366,584	
		合計	382,711	



平成27年度決算に伴う正味財産増減計算書の経常収支内訳を公表いたします。

(単位：円)

費用科目	支出金額	会計区分		
		公益目的事業	収益事業	法人会計
経常収益合計	50,942,459	17,771,585	31,753,089	1,417,785
構成比		34.9	62.3	2.8
経常費用合計	51,037,914	36,039,787	8,371,615	6,626,512
構成比		70.6	16.4	13.0
差収支	▲95,455	▲18,268,202	23,381,474	▲5,208,727

Ⓞ公益財団法人では、公益目的事業に係る経常費用の割合（公益目的事業比率という）が必ず50%以上であることが要件です。当法人では70.6%でクリアしております。

平成27年度地域振興助成額一覧表

定款に定める地域の振興及び定住化等に資するため、次の事業に助成金を支給いたしました。

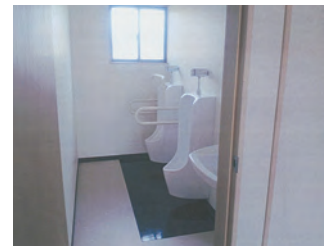
(単位：千円)

団体名	事業名	助成額
7区下洗井	下洗井庚申堂兼高齢健勝者サロン建設	2,000
4-1中町一組	トイレ改修(水洗化)	1,134
鯉ヶ平組	トイレ改修(水洗化)及びクラブ改修	1,567
新町区	クラブ改修(軒天修理)	82
8区二軒家	屋根棟瓦積み替え工事	117
青木組	ごみ置場設置事業	152
6区中切3	トイレ改修(水洗化)	1,452
大池水利組合	用水榎改修工事	299
茄子川用水組合	用水榎改修工事	97
ハード事業9件		6,900
睦会 8区	地域老人会交流事業	57
こぶし会 曙区	地域老人会交流事業	59
中部老人会	地域老人会交流事業	78
若気会 1区	地域老人会交流事業	75
高砂会 7区	地域老人会交流事業	61
桜寿会 6区	地域老人会交流事業	60
地域老人会交流事業6件		390
坂本マレットゴルフ愛好会	地域老人スポーツ事業	130
諏訪獅子保存会	地域交流事業	50
(宗)諏訪神社	地域交流事業	500
その他ソフト事業3件		680
助成事業合計18件		7,970

鯉ヶ平倶楽部改修事業



← ホール付近



男子トイレ改修 →



← 農業用水路改修
(用水榎改修)

平成27年度里山活用事業材料助成額一覧

(単位：円)

団体名	事業名	助成額
中津川工業高等学校	実習用木材提供	191,160
坂本小学校	営繕材料提供	100,242

平成27年度地域振興のための助成事業総額

8,261,402円

ヨハネス・デ・レーケ様式の砂防堰堤史跡

明治時代オランダの水利技術者ヨハネス・デ・レーケの技術指導で、完成した巨石堰堤が、里山の茄子川字津戸井地内にあります。

明治3年に政府は、外国の治水技術を取り入れ、日本の治水に役立てることを決め、明治5年以降にオランダ人の技術者を雇い、河川改修を行いました。

デ・レーケはその1人として明治5年来日し、同34年に帰国するまで主に木曾川水系の改修計画を担当しました。

明治13年8月頃に中津川に入り、その後木曾川水系域の水源地を踏査し、毎年豪雨による土砂災害により甚大な被害を受けていたこの地域を守るため、巨石三面積みの堰堤建設を指導しました。

この工事がいつ着工、完成したものか定かではありませんが、今日に至るまで巨石で強固に組み立てられた堰堤は、今もその役割を立派に果たしております。



ヨハネス・デ・レーケ

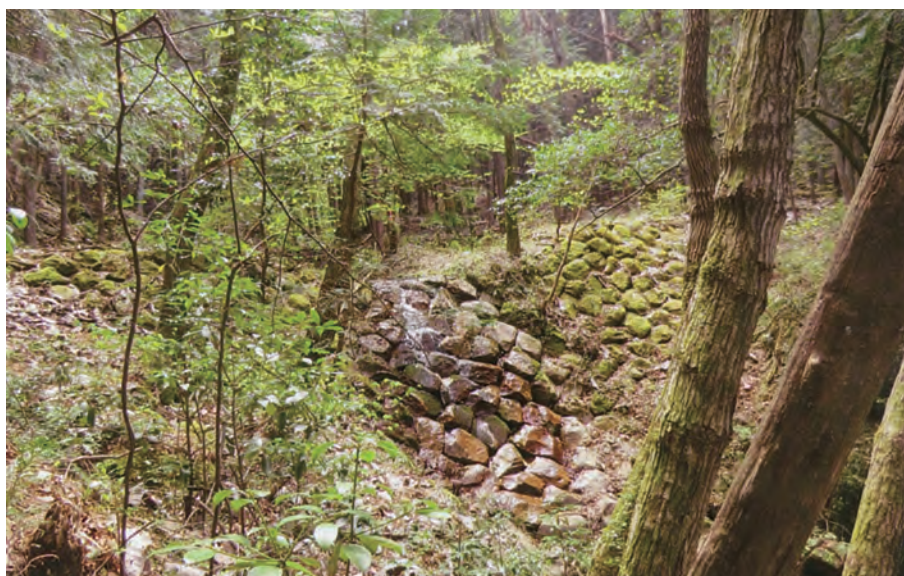
(1842年-1913年)

オランダ人の土木技師。

いわゆるお雇い外国人として日本に招聘され、砂防や

治山の工事を体系づけたことから「砂防の父」と称される。

日本の土木事業、特に河川改修や砂防における功績から農林水産省ウェブサイトにも土木史の偉人の一人として取り上げられている。



デ・レーケの技術指導により完成した堰堤

里山の植物
シリーズ
No.3

「源根の森」にある、めずらしい植物をご紹介します。



イワカガミ (岩鏡)
(イワウメ科イワカガミ属)

高山植物の一種ですが、実質的には低山帯から高山帯まで幅広く分布します。

常緑の葉は丸く、光沢があります。花期は春から夏。花は淡紅色で、花弁は5つに分かれ、その先端はさらに細かく裂けています。

花茎は10~15cmで、5~10輪の花を横向きにつけます。

和名のイワカガミ(岩鏡)は、岩場に生えることと、光沢のある葉を鏡に見立てていることに由来します。



『里山の植物』を毎回シリーズでご紹介します。